

第 4 回(2022 年度)ふしの干潟いきもの募金の収支見込及び支援対象活動の案について

1 収入見込

区分	金額 (円)
前期繰越	935,113
募金活動、募金箱、寄附*	150,000
その他収入 (受取利息)	10
合計	1,085,123

○「募金活動、募金箱、寄附」及び「受取利息」の項目は、前年の金額を参考に計上

○あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の寄附は、以下のとおり

- ・2018 年度から 2020 年度までの 3 年間：150 万円／年
- ・2021 年度：10 万円 (毎年更新可否の手続)

2 支出見込

単位：金額 (円)

区分	案の 1	案の 2	案の 3
第 4 回ふしの干潟いきもの募金支援対象事業	1,050,000	900,000	750,000
事務費 (振込手数料、感謝状等)	10,000	10,000	10,000
次期繰越	25,123	175,123	325,123
合計	1,085,123	1,085,123	1,085,123

案の 1：要望額そのまま 案の 2：要望額に対して 10 万円 案の 3：要望額に対して 5 万円

※贈与税の取り扱い

協議会は、「人格のない社団等」に該当し、法の規定が適用される。

→ 寄付金が、公益を目的とする事業に使用される場合は非課税(相続税法第 12 条)。ただし、2 年を超えて公益を目的とする事業の用に供しなかった場合、贈与税については 1 人あたり基礎控除 110 万円の規定が適用され、基礎控除を超えるものは、各規程にさかのぼり、課税対象となる。

→ 2021 年度及び 2022 年度の募金等の収入見込 = 約 30 万円

3 支援対象活動の案

下表のとおり、支援対象活動について応募があった。

募金委員会としては、配分額を案の3のとおりとし、下記4今後の方針（案）として取り扱うこととしたい。

2021年度					2022年度				
実施者		活動名	配分額	清算額	要望額 (案の1)	配分額 (案の2)	配分額 (案の3)	適合性の確認	
								活動区分	経費
山口大学	山本 浩一	河川水中におけるカブトガニ由来の環境DNA濃度の時系列変動	200,000	199,990	/	/	/	/	/
干潟・水産資源再生WG	水産大学校生物生産学科沿岸生態系研究室	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明	200,000	200,000	200,000	100,000	50,000	○	○
	環境保健センター環境科学部、自然保護課	底生生物モニタリング調査、被覆網への藻の付着影響調査	200,000	198,830	100,000	100,000	50,000	○	○
	NPO法人野鳥やまくち	胴長を着用した新たな干潟体験学習	200,000	200,000	/	/	/	/	/
	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産GR 重田利拓・辻野 睦	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究	200,000	200,000	150,000	100,000	50,000	○	○
	後藤 益滋	手のひらサイズの超小型シーケンサーによる解析の検証及び希少種の把握	200,000	-	/	/	/	/	/
カブトガニWG	原田直宏	カブトガニ幼生生息調査・観察会	200,000	8,832	50,000	50,000	50,000	○	○
持続可能な里海づくりWG	株式会社ライフスタイル研究所	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組	80,000	-	/	/	/	/	/
榎野川流域連携促進協議会		榎野川河口干潟再生活動2022	-	-	50,000	50,000	50,000	○	○
事務局	ニュースレター作成		100,000	-	100,000	100,000	100,000	○	○
	物品購入費（被覆網）		100,000	96,800	200,000	200,000	200,000		
	処分費（被覆網）		200,000	-	200,000	200,000	200,000		
小計			1,880,000	1,104,252	1,050,000	900,000	750,000		
ふしの干潟いきもの募金委員会事務局		事務費（振込手数料）	10,000	1,980	10,000	10,000	10,000		
		事務費（あいおいニッセイ募金感謝状）	-	5,500					
合計			1,890,000	1,111,732	1,060,000	910,000	760,000		

4 今後の方針（案）

今後も同様の募金額が継続する場合、2017年度に取りまとめた「榎野川河口域・干潟自然再生協議会の活動に関する評価及び提言書」において、自然再生協議会の活動として継続されてきた以下の活動への助成に注力することとし、各委員の調査・研究への個別の助成は当面休止する。

- ・榎野川河口干潟再生活動（2005年～）
- ・アサリ再生活動に係る被覆網の購入
- ・カブトガニ幼生生息調査・観察会（2006年～）

また、ニュースレターは当面印刷せず、ホームページ等での電子での提供とする。